

## 2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	耐風設計資料小委員会	主 査 名：田村哲郎 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)	委員長名：塩原 等 主 査 名：高橋 徹
設 置 期 間	2018 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>『建築物荷重指針・同解説』2015 年版における課題とその対応策および新しい導入事項を整理する。また、風荷重評価で CFD の適用が認められたことに伴い、耐風設計法における新規の方向性を明確化することをめざす。</p> <p>初年度：風圧・風力の推定に関して、風洞実験、CFD により得られた数値のばらつき、精度について吟味し、それぞれの手法の特徴を整理するとともに性能設計高度化への道筋を検討する。</p> <p>2 年度：荷重指針改定の具体的な活動方針を中長期的な視点から明確化。CFD 適用ガイドの公表後、2 年経過した状況で課題を明確にするとともに対応策を提示する。近年の極端気象に対する被害の調査と要因を分析する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：田村哲郎 (東京工業大学) 幹事：岸田岳士 (電力中央研究所)、谷口徹郎 (大阪市立大学) 委員：植松康 (東北大学)、小野佳之 (大林組)、片桐純治 (泉創建エンジニアリング)、喜々津仁密 (国土技術政策総合研究所)、菊池浩利 (清水建設)、近藤宏二 (鹿島建設)、佐藤大樹 (東京工業大学)、田中英之 (竹中工務店)、寺崎浩 (大成建設)、松井正宏 (東京工芸大学)、道岡武信 (近畿大学)、吉江慶祐 (日建設計)	
設置 WG (WG 名：目的)	設計風速評価 WG：設計風速を評価する上での課題抽出／CFD 荷重算定 WG：耐風設計における CFD の明確化／実大ストームシミュレータ目標性能検討 WG：実大実験実現のための実大シミュレータの目標の検討／風疲労 WG：次回指針改定時の風疲労に関する項目の導入／風工学・気象 WG：CFD を活かした風工学と気象学の融合／耐風設計データベース WG：計算コード検証のためのデータベースの整備	
2018 年度予算	320,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：—

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. AIJ Recommendations for Loads on Buildings (2015 Edition) 【デジタル・オンライン版】(建築物荷重指針・同解説 2015 [英語抄訳版])
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 次回の荷重指針改定に向けた活動方針として、課題とその対応策および新しい事項 (突風荷重、マルチハザードなど) を整理した。 2. CFD が導入された場合、風圧・風力については対象建築物ごとに適宜推定されることが常態化することから、荷重評価の基本的考え方をまとめた。 3. 指針の英文原稿の執筆を終え、native check を経て、英文指針が刊行した。
委員会活動の問題点 ・課題	1. CFD の技術は発展していくため、継続的な技術の補足が必要であり、適用ガイドの修正を進めることとした。 2. データベースについて、数値のばらつき、精度について吟味し、それぞれの生成手法の特徴を整理するとともに性能設計高度化への展開を検討することになった。